

令和４年度 第３回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和４年７月１９日（火）１９：００～２０：００
【場 所】 広島市役所 １４階第７会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、高橋 宏明、佐藤 貴、新甲 さなえ、
平賀 正文、増田 裕久、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、南 心司

１ 感染症に関する最近の情報

（１）新型コロナウイルスワクチン接種について（資料１ P1～6）

ア 接種率

本市における新型コロナワクチン接種状況は、７月１１日時点で、１回目の接種率が 76.6%、２回目の接種率が 76.2%、３回目の接種率が 56.9%、４回目の接種率が 2.2%（60 歳以上：7.1%（26,505 件）、18 歳～59 歳：0.0%（122 件））であった。また、５歳～11 歳の子ども（小児）への接種については、１回目が 13.5%、２回目が 12.7%であった。

イ ４回目接種に係るハガキの送付

本市は、４回目接種の対象となる 18 歳～59 歳で基礎疾患を有する者等に係る情報を把握していないことから、これらの者に対する接種券の発行を行うことができず、これらの者が接種券を入手するためには、接種券の発行申請を行う必要がある。このため、４月 30 日までに 3 回目接種を完了した者に対し、別紙のハガキを送付し、広く周知を図った。

ウ 新型コロナウイルス感染症予防接種証明書のコンビニ交付について

国は、ワクチン接種証明書の発行について、昨年末にスマートフォンのアプリをリリースしているが、この度、更なる利便性向上のため、コンビニエンスストアにおける交付を行う予定としている。７月下旬から全国で開始する方針としており、ワクチンの接種記録が複数の市町村にまたがる場合もあることから、本市も参加する予定である。

（ⅰ）概要

セブン－イレブンなどの一部のコンビニエンスストアにおいて、住民票のコンビニ交付と同様に、キオスク端末を用いて、マイナンバーカードを所有する市民が紙での証明を受けることが可能となる（証明書発行料：１通当たり 120 円）。なお、市町村窓口が閉庁している時間等においても利用することが可能である。

（ⅱ）運営経費

令和４年度の運営経費については国が全額負担するが、令和５年度の運営経費については、自治体負担となる見込み。

（ⅲ）今後、必要となる事務

マイナンバーを取り扱うことから、特定個人情報保護評価の見直しを行う必要がある。

また、令和５年度については、運営経費が自治体負担となる可能性があることから、参加について検討する必要がある。

（委員意見）

- ・ 引き続きワクチン接種を進めてほしい。

（２）新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料１ P7～22）

本市の感染状況は、全国と同様、感染が増加傾向に転じており、県内の 7 月 12 日の新規報告者数は 808 人である。年代別では、50 代以下の若い世代の増加が顕著になっており、高齢者にも緩やかに波及しはじめているが、現在のところ病床のひっ迫は回避でき

ている。感染増加の要因の一つには、オミクロン株「BA.5 系統」（以下「BA.5」という。）の影響があると考えられ、今後、BA.5 への置き換わりが急速に進んだ場合は感染が拡大する恐れがある。

今後の感染者数に関する県のシミュレーションでは、7 月下旬には第 6 波のピーク（1,599 人）を超えて、他県と同様、過去最大の感染者数となる可能性があり、すでに BA.5 への置き換わりが進む島根県の状況に当てはめると、1 日の新規報告者数で 2,800 人となる可能性が示されている。この場合、医療への負荷も大きくなるため、県は入院の受入体制確保に向けて、7 月 12 日に病床フェーズの引き上げ等の対応を含め、受入医療機関や医師会等の関係団体と協議している。

また、感染症が増加した場合でも発生動向を適切・迅速に把握するため、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部が改正され、発生届出の様式が簡素化された。

（委員意見）

- ・ 第 7 波に入り、患者数の増加から医療機関でのハースス入力等の負担も増大しているが、継続して対応していく必要がある。

（3）サル痘について（資料 1 P23～41）

2022 年 5 月以降、欧州、北米等において、サル痘の感染例及び疑い例が報告されている。

7 月 6 日の世界保健機関(WHO)の発表では、59 か国・地域(アフリカ 8 か国を含む。)から、計 6,027 例の確定例が報告されている。アフリカ以外のこれまで発生がなかった国での死亡例の報告はない。また、WHO は、症例の多くは若い年齢の男性で、都市圏のゲイ・バイセクシャルその他の男性間の性交渉を行う者のネットワークの中で集中していることを指摘している。

今般、欧米等において確認されているサル痘の流行については、その疫学的動向が既知の知見と異なっていることから、当面の間、本疾患を疑う患者(以下、「疑い例」という。)及びその接触者に関する暫定症例定義は以下のとおりとされている。

＜参考：疑い例及び接触者に関する暫定症例定義＞

【疑い例の定義】以下の①～③すべてを満たす者

- ① 説明困難な急性発疹を呈している（水痘、風しん、梅毒、伝染性軟属症、アレルギー反応、その他急性発疹及び皮膚病変を呈する疾患によるものとして説明が困難であるもの。ただし、これらの疾患が検査により否定されていることは必須でない。）
- ② 次の 1 つ以上の症状を呈している。
発熱(38.5℃以上)、頭痛、背中の痛み、重度の脱力感、リンパ節腫脹、筋肉痛
- ③ 次のいずれかに該当する。
 - ・ 発症 21 日以内にサル痘常在国やサル痘症例が報告されている国に滞在歴があった。
 - ・ 発症 21 日以内にサル痘常在国やサル痘症例が報告されている国に滞在歴がある者と接触(資料 1 P.27 表 1 のレベル中以上)があった。
 - ・ 発症 21 日以内にサル痘の患者又は①及び②を満たす者との接触(資料 1 P.27 表 1 のレベル中以上)があった。
 - ・ 発症 21 日以内に複数または不特定の者と性的接触があった。
 - ・ 臨床的にサル痘を疑うに足るとして主治医が判断をした。

【接触者の定義】

「サル痘の患者(確定例)又は疑い例」と資料 1 P.27 表 1 に示す接触状況があった者を指す。

（委員意見）

- ・ 今後の発生動向を注視していく必要がある。

(4) 感染症サーベイランスの更改について（資料1 P42～45）

厚生労働省は、感染症法に基づく発生動向調査事業を円滑かつ確実に実施するため、平成18年度より運用されている感染症サーベイランスシステムを次期感染症サーベイランスシステムへ更改すること予定している。次期システムの運用開始は令和4年10月を予定しており、本市では令和4年7月7日～15日の間に定点医療機関に依頼し、更改に向けた事前準備（システムへの疎通確認）を実施した。（運用開始までのスケジュールは資料1 P.45を参照）

（委員意見）

- ・これから出てくる情報を注視し、システムの運用は入力容易で、効率的に報告ができるようにしてほしい。

2 6月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和4年6月分	令和4年7月分
		報告日 6/6～7/3	報告日 7/4～7/10 現在
2類	結核	12 人 (結核 10 人、潜在性結核 2 人)	1 人
3類	腸管出血性大腸菌感染症	5 人 (6/7、6/11、6/21、6/28(2 人))	1 人 (7/5)
4類	E 型肝炎	1 人 (6/14)	
	日本紅斑熱	1 人 (6/29)	
	マラリア	1 人 (6/17)	
	レジオネラ症	4 人 (6/10、6/24、7/1、7/2)	1 人 (7/5)
5類	アメーバ赤痢		1 人 (7/6)
	ウイルス性肝炎	3 人 (6/7、6/20、6/23)	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 人 (6/14)	
	侵襲性肺炎球菌感染症		1 人 (7/8)
	梅毒	25 人 (6/7、6/10(3 人)、6/11、6/13、6/14(2 人)、6/15、6/16(2 人)、6/17(3 人)、6/20、6/23、6/25、6/27、6/28(2 人)、6/29(3 人)、6/30(2 人))	7 人 (7/4、7/5(3 人)、7/7(3 人))
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 人 (6/17、6/27)	
	百日咳	1 人 (6/27)	
新型インフル	新型コロナウイルス感染症	5,467 人	1,898 人

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和4年9月20日(火) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：6月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、6月は971人で、前月比1.24とやや増加した。

手足口病、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症は大きく増加、感染性胃腸炎はほぼ横ばい、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんはやや減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症は5月下旬以降減少傾向が続いていたが、7月から増加に転じた（図1）。全国でも新規感染者数は増加から急増となっており、過去最多を更新する地域もみられる。オミクロン株の新たな系統であるBA.5が本市でも確認され、今後、置き換わりが進むことで感染者数が急増する可能性があり注意が必要である。マスク着用、3密回避、換気など感染防止対策の徹底が重要である。
- RSウイルス感染症は、第27週（7月4日～7月10日）に定点当たり2.50人の報告があり急増している（図2）。昨年は、例年より早い5月から増加が始まり、ピーク時は定点当たり9.29人と非常に大きな流行となった。生後数カ月までの乳児が感染した場合は重症化しやすいため、咳等の呼吸器症状がある人との接触を避けるなどの注意が必要である。

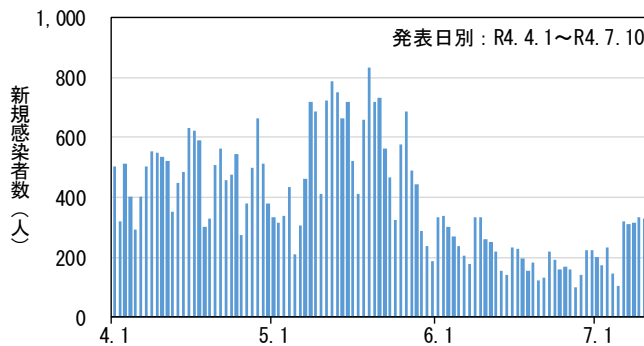


図1 新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移（広島市）

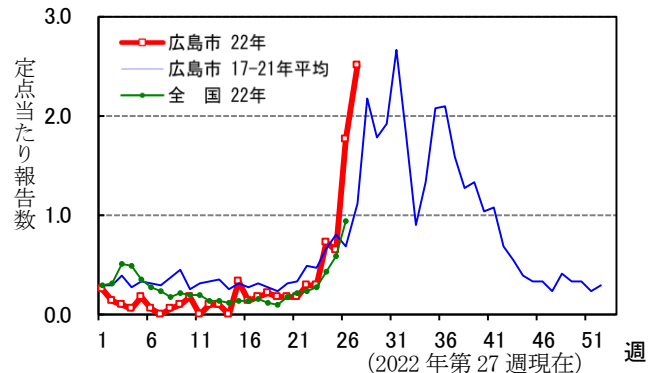


図2 RSウイルス感染症の流行状況

- 手足口病は、第27週に3.38人の報告があり増加している。乳幼児を中心に、隔年で大きな流行がみられる感染症であるが、新型コロナウイルス感染症の発生以降は小規模な流行に留まっており、今後の発生動向に注意が必要である。手洗いの励行、排泄物の適切な処理、タオルの共用は避けるなどの感染予防対策を徹底することが大切である。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が6月から増加しており、今年の累計報告数は8件（7月10日現在）となった。肉等の食品の十分な加熱、二次汚染の防止、食材・調理器具の洗浄や手洗いなどの感染対策を徹底することが大切である。
- 梅毒の今年の累計報告数は159件（7月10日現在）となり、非常に多い状況が続いている。

(3) 6月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核12件（患者：10件、潜在性結核：2件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 5件
- 4類感染症：E型肝炎 1件、日本紅斑熱 1件、マラリア 1件、レジオネラ症 4件
- 5類感染症：ウイルス性肝炎 3件、クロイツフェルト・ヤコブ病 1件、梅毒 25件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2件、百日咳 1件
- 新型インフルエンザ等感染症：新型コロナウイルス感染症 5,467件

(4) 今後の流行予測

- 手足口病、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症・・・【流行始まり】
- 梅毒、新型コロナウイルス感染症・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

6月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
ヘルパンギーナ	*アデノウイルス 2 型	5 月	1 人
	*パレコウイルス 3 型		
流行性角結膜炎	アデノウイルス 56 型	4 月	1 人
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス 2 型	4 月	1 人

*：複数病原体検出例

3 人の患者から 3 種類のウイルス 4 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、アデノウイルス 2 型 2 株、アデノウイルス 56 型及びパレコウイルス 3 型各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和4年6月解析分)

1. 週報対象(第23週～第26週)

No.	疾患名	発生 記号	報告数	定点 当たり	今後の 予測	No.	疾患名	発生 記号	報告数	定点 当たり	今後の 予測
1	インフルエンザ		—	—		10	流行性耳下腺炎		1	0.04	
2	咽頭結膜熱		38	1.58		11	RSウイルス感染症		81	3.38	
3	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎		39	1.63		12	急性出血性結膜炎		—	—	
4	感染性胃腸炎		586	24.43		13	流行性角結膜炎		10	1.26	
5	水痘		7	0.29		14	細菌性髄膜炎		—	—	
6	手足口病		129	5.38		15	無菌性髄膜炎		—	—	
7	伝染性紅斑		2	0.08		16	マイコプラズマ肺炎		—	—	
8	突発性発しん		31	1.29		17	クラミジア肺炎		—	—	
9	ヘルパンギーナ		26	1.08		18	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)		—	—	

2. 月報対象(6月)

No.	疾患名	発生 記号	報告数	定点 当たり
1	性器クラミジア感染症		29	3.22
2	性器ヘルペス ウイルス感染症		14	1.56
3	尖圭コンジローマ		11	1.22
4	淋菌感染症		22	2.44
5	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		21	3.00
6	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症		—	—
7	薬剤耐性 緑膿菌感染症		—	—

発生記号

前月と比較しておおむね 1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね 1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね 1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数 のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和4年6月分)

第23週～第26週(6月6日～7月3日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	12	57	1,336	7,309
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	1	13
	17 腸管出血性大腸菌感染症	5	7	342	937
	18 腸チフス	-	-	2	9
	19 パラチフス	-	-	2	3
四類	20 E型肝炎	1	1	37	229
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	-	11	44
	23 エキノコックス症	-	-	3	14
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	-	4
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	2	7
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	-
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	20	66
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	4	4
	40 つつが虫病	-	-	15	94
	41 デング熱	-	-	3	16
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	1	1	50	126
	46 日本脳炎	-	1	-	1
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	1
	55 マラリア	1	1	4	9
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	1	3
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	1
	61 レジオネラ症	4	17	250	859
	62 レプトスピラ症	-	-	1	3
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	1	42	251
	65 ウイルス性肝炎	3	4	26	107
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	6	167	799
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	3	12
	68 急性脳炎	-	3	34	149
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	2	5
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2	15	90
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	54	373
	72 後天性免疫不全症候群	-	5	90	448
	73 ジアルジア症	-	-	5	19
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	11	90
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	4
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	2	100	645
	77 水痘(入院例に限る。)	-	4	23	159
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	25	152	1,144	5,615
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	9	72
	81 破傷風	-	3	12	41
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	6	14	79
	84 百日咳	1	4	32	269
	85 風しん	-	-	2	4
	86 麻しん	-	-	-	1
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	2	4
新型インフル	88 新型コロナウイルス感染症 ※	5,467	89,741	451,892	9,378,227

※全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)。広島市、全国の累積は2020年からの合計。